

才能教育の諸類型

～日本型才能教育を巡る討論資料～

文科省・2021/7/14
放送大学 岩永雅也

多様な才能(gifted & talented)教育(米)

➤ 才能教育の最先進国アメリカにおける才能児・者への教育の三類型

早修(acceleration)教育

拡充(enrichment)教育

2E(twice-exceptional)教育

言うまでもなく、早修とは・・・

- 既存の教育プログラムの早期に履修
または速修(特別な教材は用いない)
- 暦年齢を超える主要領域の学力を示
す児童生徒に適合するレベルの教育
- 飛び級・早期入学(初・中・高等)・アド
バンスト・プレースメント(AP)・早期卒業な
ど対応は多様

アメリカにおける早修類型（抄）

- ☐ 1. 早期入園・早期入学
- ☐ 2. 飛び級
- ★ ☐ 3. 先取り学習
- ☐ 4. カリキュラム短縮
- ☐ 5. テレスコーピング（期間短縮）
- ★ ☐ 6. 課外プログラム
- ☐ 7. 通信指導
- ★ ☐ 8. アドバンスト・プレースメント（AP）
- ☐ 9. 中学・高校・大学（院）への早期入学☆

『欺かれた国家（A Nation Deceived）』～テンプルトン・レポート2004～ より

★は日本でも実施または類似の対応が可能なプログラム

アメリカの早修・日本の早期入学

- 毎年20万人以上の7～8年生(中1～2)がSATまたはACTを受験し、その多くが12年生(高3)と同等の成績を収めている
- 調査によると、彼らは10年生の標準的な学習内容を3週間で習得することが可能だという
- アメリカの18歳未満の大学学部入学者数は約毎年約18万人(2011年度:連邦教育庁統計)
- 日本の18歳未満の大学学部入学者累積数は130人程度に止まる(18年度までの累計:文科省)

アメリカにおける早修の実態

➤メディアでは12歳の大学生などの“天才”が取り上げられるが、実際の早期入学者の大半は1～2歳若いだけ→例外的ではない

➤多様な経路がある

- ・高校在学中に大学の講義や夏季講座受講→

単位取得→大学での早修

- ・高校1年→高校3年→大学入学

- ・高校在学中にAP多く取得→大学で早修 etc.

★ アドバンスト・フリースメント (AP)

- 高校に在籍する生徒が、大学レベルの科目を通常の高校カリキュラムの範囲を超えて受講し、非営利教育団体のカレッジボード (College Board) が実施する全国統一のAP試験を受験して成績の認定を受ける制度→AP革命
- 芸術科目も含む30科目以上で実施、毎年約120万人が平均2コース受験(6割の高校開講)
- 修得した単位は大学入学後に必須単位としてカウントされ、有力大学入学の際にも有利
- 米国外の24ヶ国も利用 → 日本でも導入可？

早修のメリット

- 能力よりも遅れたカリキュラムにより生じる不適応・ストレスの回避
- 才能児の達成水準の高度化
- 社会経済的格差の是正
- 公的支出の軽減
- 教育を受ける側の経済的負担軽減

早修の問題点

- 学問的達成とは別の人間的成熟が損なわれる
- 早修は結局、経済力のある家庭の若者たちのためのものであって、教育格差を拡大する
- 無理をすることで若者たちにストレスを与えてしまう
- 同年齢の学級集団とのつながりが失われる
- 学習した内容の体系性が損なわれる
- *Early ripe, early rot*（早く熟れば早く腐る）

CSULAタイプの早期入学

- EEP (Early Entrance Program) は、才能ある中・高生を早期入学させるプログラム・カリフォルニア州立大学ロサンゼルス校で1982年に開始
- 11歳～の才能者に大学教育機会を提供する
- 約150人の選ばれた学生 (EEPsters) が在籍
- 毎年全米から約100人志願、25～40人が入学
- SAT計1100点またはACT英語24・数学23～
- 面接およびProvisional Quarter (“Provie Summer”) の厳しい評定も課す
- 入学後は一般学生と同じクラスで同様に学ぶ

12歳のアルテア少年(1992年:カリフォルニア州立大・LA分校にて)

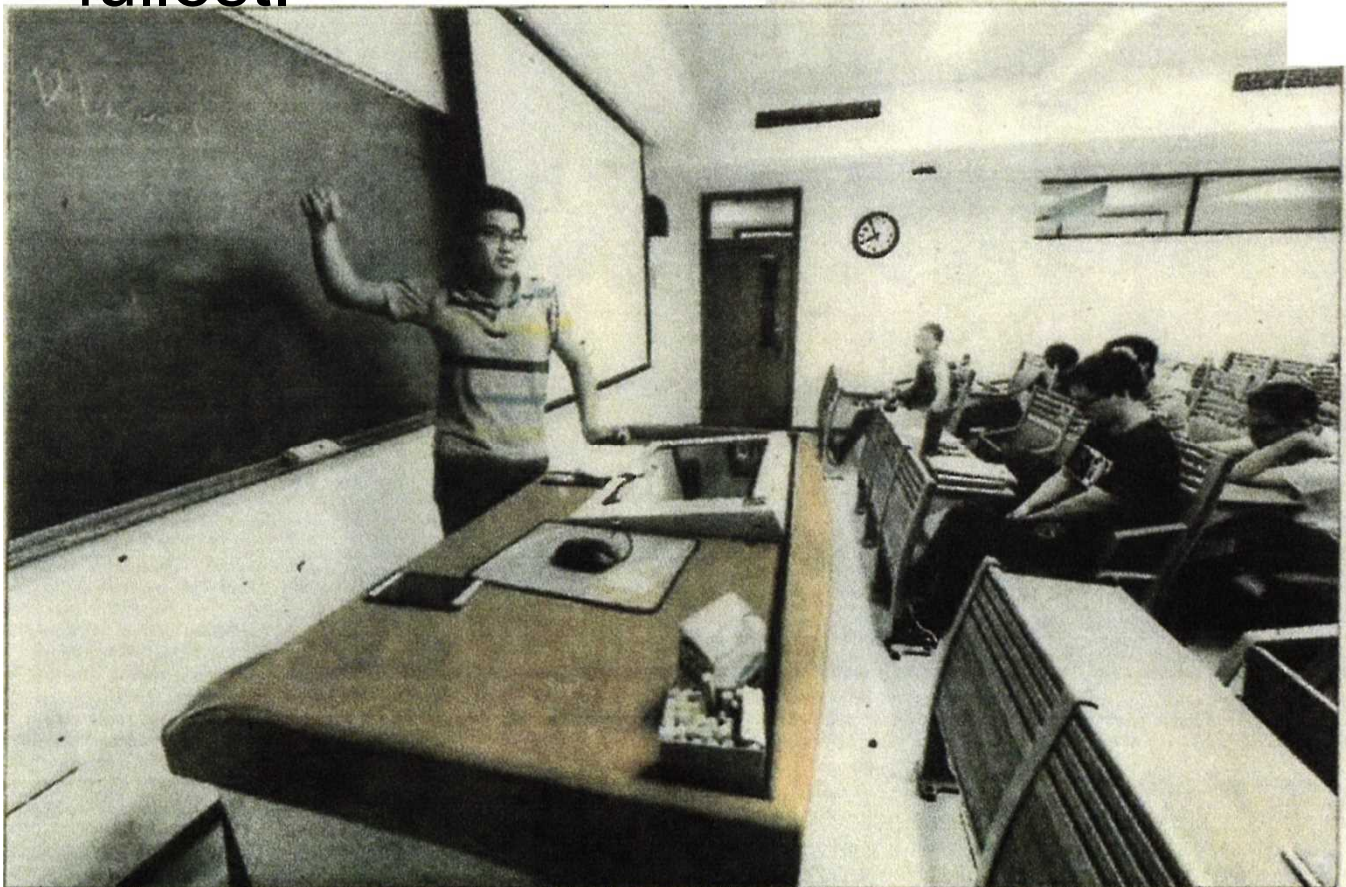


ALTAIR M.氏近影(HGMのHPより)



中国における早期入学

Gifted students revel in a class of their own. Early access to undergraduate studies helps academically talented young people exploit their potential to the fullest.



(中国・合肥からレポート
Zhu Lixin
“China Daily”
2018.9.18)

一方、これも衆知のことながら拡充は・・・

- **高能力者に対する通常の範囲を超えたより広く深い内容の教育**
- **主として公的機関によって行われその様態は早修よりさらに多様**
- **原則として飛び級・早期入学などの暦年齢を大幅に超えた対応はない**
- **その多くが現在の日本でも導入可能**

アメリカにおける拡充

1. 個人学習・プロジェクト

2. 教室内学習センター

3. Junior Great Books

4. 実地見学(field trip)

5. 個人指導(mentorships)

6. 土曜・夏期プログラム(大学・知事校)

7. コンテスト・コンクール

8. 全校拡充モデル(SEM)

9. MI(Multiple Intelligences)スクール

松村暢隆『アメリカの才能教育』(2003)より

拡充のメリット

- より広く深い学習に振り向けることができるため、創造的・総合的・応用的な能力を豊かに伸ばせる
- 学習内容をスキップしないため未習の学習課題が発生しない
- 集団が維持され社会性も身につく
- 一握りの例外的才能者だけでなく多数の生徒に対応できる

拡充の問題点

- **学習者自身の動機付け弱い（非競争的）**
- **才能の認定にコストと時間がかかる**
- **教材開発や専門の教員の確保などにコストと手間がかかる**
- **ほとんど公的資金に依るため、公的教育費の増大を招きがちである**

さらに、2E教育は・・・

- **LD、ASDなどの発達障害を持ちながら特定領域での高い才能も併せ持つ二重に例外的な児童生徒への教育**
- **H・ガードナーの多重知能理論(「弱い能力」を「強い能力」で補う)に基づく**
- **特別支援教育と才能教育の連携**
- **近年、ディスレクシアや芸術領域の才能教育でも注目される**

2E教育の特性(抄)

- 一般の児童生徒に対する継次処理型指導(段階性・順序性の重視、部分から全体へ、言語中心、分析的)よりも同時処理型指導(全体性・関連性の重視、全体から部分へ、視覚中心、統合的)に適応
- 能力を同尺度上の「進・遅進」の違いではなく能力のタイプ、領域の違いと捉える
- 現段階では発達障害の児童生徒が対象となるが、一般的なカリキュラムへの示唆・影響も期待される

克服すべき課題～早修と拡充の融合～

➤ 日本における才能教育の展開にはいくつかの課題

① 才能教育のメリットが、日本では必ずしも明確でない

→ 早修はむしろ将来性を狭め、拡充は経費負担の根拠が曖昧

② 才能児への特別な教育的措置への社会的合意形成が難しい

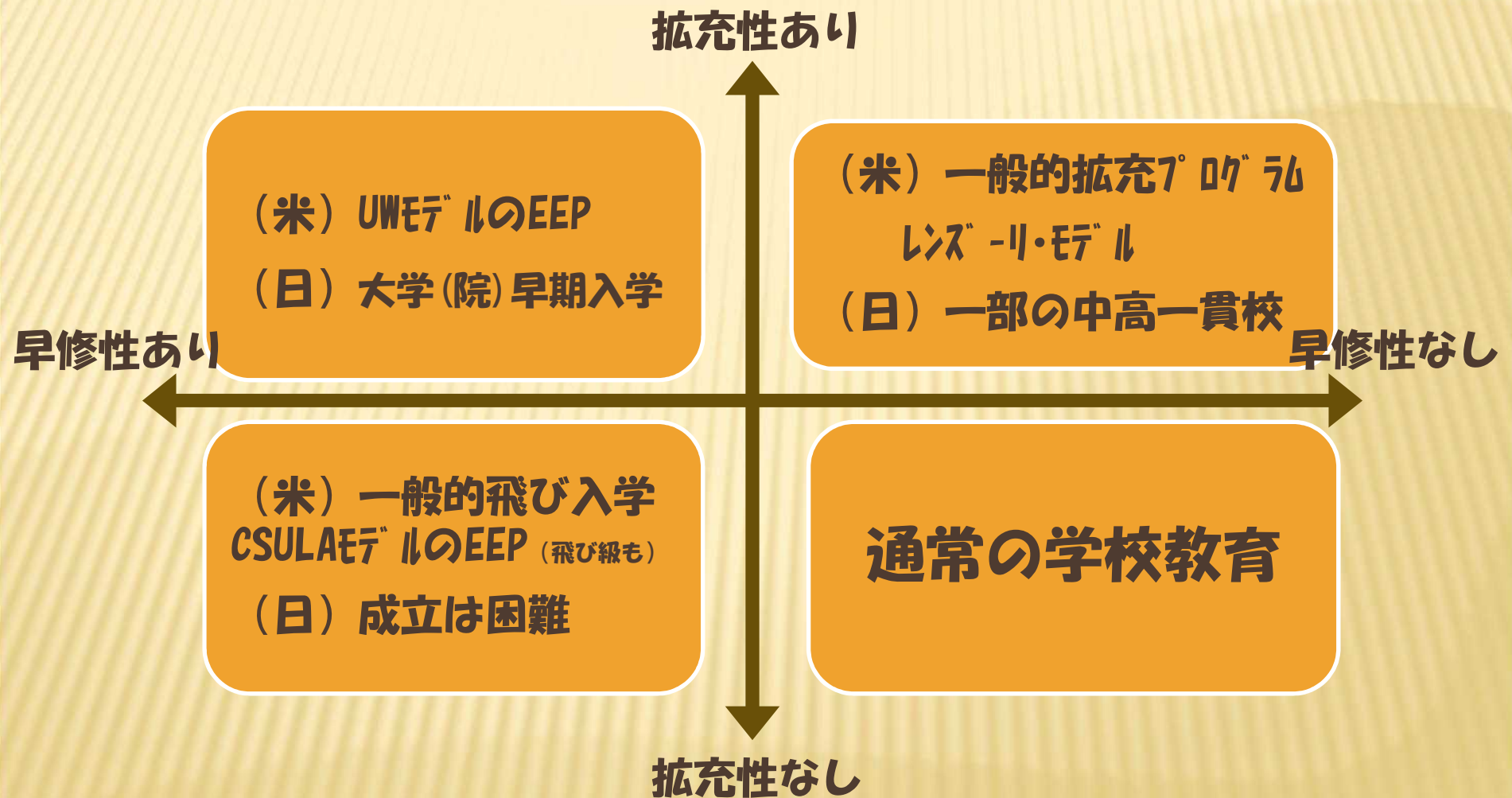
③ 実践的蓄積がなく、ノウハウも自前では得にくい

④ 現場で才能児を探索し教育する役割を担う教師がいない

⑤ 才能教育に関わる教員の養成がまったく遅れている

➤ ただ教育期間が短縮され諸負担が節減されるだけでなく、その減分を有効利用する仕組みを作ることが重要→早修と拡充の融合₂₀

早修性と拡充性の関わり-整理の試み-



才能教育とエリート教育の対照表(アメリカの場合)

	早修(アクセラレーション)	拡充(エンリッチメント)	エリート教育
目的	・ 専門的才能の早期発見と早期開発 ・ 学校不適応者救済 ・ 有力大学の経営戦略	・ 教育水準の全社会的向上 ・ マイノリティの支援 ・ 教育地域格差解消	・ 社会的指導層の育成 ・ 上層階級文化の維持伝達
主体	・ 有力私大、非営利団体 ・ 個人、親、スポンサー企業	・ 州、郡、市、連邦 ・ 知事学校、マグネット校等	・ プレップスクール ・ 有名カレッジ
選拔基準	・ 年齢集団の1%以下 ・ IQ150～ ・ 理系(数学・物理)中心 ・ SAT、ACT早期受験	・ 年齢集団の10～30% ・ IQ120～ ・ 全分野(含芸術等) ・ 教師、親、級友の推薦	・ 独自の試験や面接等による、時として主観的な選抜 ・ 家庭背景を重視

才能教育とエリート教育の対照表(アメリカの場合)

	早修(アクセラレーション)	拡充(エンリッチメント)	エリート教育
形態と方法	・サマー・スクール、 大学^①の才能児プログラム ・既存の上級教材の早期提供、短期間習得	・プル・アウト、特別学校、AP ・深化した総合的カリキュラム、独自の教材	・全寮制による伝統的全人教育 ・外国語を重視した古典的教養カリキュラム
特徴	・飛び級や早期大学入学 ・個人負担大きい ・大都市部に偏在 ・才能教育全体の1割程度	・飛び級や早期入学しない ・公的に補助される ・地域指向、マイノリティ指向が強い ・才能教育全体の9割程度	・原則的に飛び級や早期入学はない ・経済的あるいは伝統的文化的な参入障壁高い ・マイノリティは少ない

ご清聴、感謝！



エノテラ